



Comparison of effect of an increased dosage of vonoprazan versus vonoprazan plus lafutidine on gastric acid inhibition and serum gastrin

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2021-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 崇弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003831

論文審査の結果の要旨

逆流性食道炎や胃十二指腸粘膜障害などの酸関連疾患に対してボノプラザン (VPZ) 1日 20 mg 投与が行われている。VPZ は強力な酸分泌抑制効果を有するものの高ガストリン血症を生じることから、長期的には腸クロム親和性細胞様細胞の過形成や、神経内分泌腫瘍、胃がんや大腸がんの発生リスクに関与する可能性が示唆されている。一方 H2 受容体拮抗薬であるラフチジン(LAF)は、ソマトスタチンの分泌を促進することにより高ガストリン血症を来さないとされている。

申請者は、VPZ 10 mg に LAF 10 mg を併用することによる胃酸分泌抑制増強効果および血清ガストリン値に与える影響について検討した。15 名の健常人ボランティアに対して、①VPZ 20 mg、②VPZ 10 mg + LAF 10 mg、③VPZ 10 mg の3種のレジメンをランダム化クロスオーバー試験にて、7 日間内服時の 24 時間胃内 pH モニタリングを行い、胃内 pH と血清ガストリン値を 3 群で比較した。

結果として VPZ と LAF の併用群は VPZ 10 mg 単独群に比べて有意に高い pH が得られ、とくに夜間の酸分泌抑制効果において VPZ 20 mg 群と差を認めなかった。VPZ と LAF の併用群における血清ガストリン値は VPZ 20 mg 群よりも有意に低値となり、VPZ 10 mg 単独群よりもさらに下がる傾向が認められた。

以上より VPZ 10 mg と LAF 10 mg の併用では、VPZ 10 mg 単独よりも高い胃酸分泌抑制効果を血清ガストリン値の上昇なく得られることが示された。

審査委員会では、用量設定の根拠や内服のタイミング、個人差等について議論がなされたが、実際に高齢の逆流性食道炎患者においても同様の併用効果が得られていることが示され、実臨床への応用可能性という点で高く評価された。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 竹内 裕也

副査 梅村 和夫

副査 星野 裕信